

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4290700097		
法人名	株式会社翔里		
事業所名	翔里第二グループ		
所在地	長崎県平戸市津吉町1051		
自己評価作成日	令和5年3月10日	評価結果市町村受理日	令和5年4月3日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構		
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1		
訪問調査日	令和5年3月23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

病院後の建物を改築し利用しているグループホームの為、スペースが広くのびのびと生活していただくことができる。また、敷地内には、広い畑があり、季節ごとに花を植えたり、野菜を育て、利用者様と一緒に収穫も楽しんでいる。収穫した野菜を使用し、毎日の食事に提供している。毎日鶏の掃除の際には、キッチン、食堂は毎食後の拭き掃除と、廊下、居室は、朝食後にモップにて床拭きを行っている。EM菌を使用した水で床拭きを行っている。そのせいか、においもなく、床もいつもきれいにしていると外部から見学された方やご家族に言っていただいていた。ケアにおいても入居されるまでおむつを終日使用していた方が、入居後、布のショーツで生活することができるようになりご家族も大変喜んでおられた。入浴についても本人様の意向に添える場合は、毎日でも入浴できるように支援している。利用者様のできる力を活かして生活していただいている。また、利用者様の思いを聴き、そのことが実現できるように支援している。敷地内の散歩や、ドライブに出かけたりしてストレスケアに努めている。

当ホームは、以前は病院であった建物で、翔里、翔里第二を各2ユニットで運営している。ホーム敷地内には菜園があり、季節の野菜を植えて入居者とともに収穫を喜び、その食材を使った旬のものを口にしている入居者の笑顔が、職員の喜びややりがいに繋がっている。排泄支援に関し、ホーム全体で拘りを持ち、リハビリパンツから布パンツに変更するなど、全職員が排泄支援に高い意識を持っている。夜間の排泄でもポータブルトイレを使用する入居者はおらず、トイレでの排泄ができるよう支援している。ホーム内は臭気のない環境で、EM菌を使用した拭き掃除を行い、ホーム全体の清潔保持に努めている。最近、職員の離職が続く、施設長をはじめ職員の心身への負担が増していることが見受けられるが、入居者の笑顔や喜びの姿があるからこそ、施設長及び職員は低下したモチベーションを高めながら支援に努めている。現在、人員の関係で新たに入居者を受け入れることができないが、役員を含む全職員がホームの運営に関わりながら入居者や家族が安心して生活でき、地域との繋がりを維持しながら、以前のように活気あるホームの姿を取り戻せるよう今後の取り組みに期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

ユニット名 A棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝の申し送りの後、運営理念の唱和、年間目標を唱和している。昨年より、スピーチロックについて(虐待について)、職員全員が意識できるように、自分たちで意識できる言葉を考えそれを唱和している。	ホームは毎朝の申し送り時に理念の唱和だけでなく、入居者に対してどのような言動が身体拘束に該当するスピーチロックなのかを各自で出し合っている。理念とともにスピーチロックをしない支援に全職員が共通の意識を持って取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年度もコロナ感染予防の関係で近隣の保育園、小学校、中学校からの慰問・ボランティア活動などもすべて中止している。家族の面会に関してもまだ制限しながら行っている。地域で行われる茶市についても開催されなかった。	コロナ禍の中で、現在、以前のように地域との活発な交流は困難であるが、今後は開催予定の茶市への参加や、保育園児や小中学生との交流、町内の敬老会への参加やボランティア活動の依頼等、地域との交流を再開する方針である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年度もコロナ感染予防の関係で近隣の保育園、小学校、中学校からの慰問・ボランティア活動などもすべて中止している。家族の面会に関してもまだ制限しながら行っている。地域で行われる茶市についても開催されなかった。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度は、運営推進会議を何度か施設内で開催したが、現在従業員の不足などの話が多い。	運営推進会議はコロナ感染状況を考慮しながら書面会議や対面会議を実施している。市介護保険班職員、地域包括支援センター職員、老人会会長、元区長である顧問で構成し、地域とホームの情報交換や、対面会議ではホームの報告内容について各構成メンバーの質問への回答や意見交換を行い、議事録に残している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市役所の介護保険班の担当者の方とは、職場の内情等についても相談させていただくこともあり最善の策などについても相談させていただいている。	運営推進会議の構成メンバーである市介護保険班の職員に対し、現在の職員の離職状況やそれに伴う職場環境について相談している。地域包括支援センターとは以前からホームの空床状況について情報共有を行っている。現在は空床があっても人員不足の為受け入れが困難な状況である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3か月に1回委員会を開催し、各ユニットの現状報告、全職員が身体拘束についての意識できているか、検討課題などについて話し合っている。内容については、運営推進会議でも報告し、意見をいただくこともある。身体拘束についての勉強会を年2回開催。内容については、各ユニットで意見をだし、内容を決定し勉強会を行っている。	3か月に1回、身体拘束適正化委員会の開催、及び年2回、身体拘束に関する勉強会を実施し、身体拘束について職員の理解を深めている。特に日常支援の中で多々あるスピーチロックについては毎朝の申し送り時に職員間で意識の確認やスピーチロックに該当する言葉かけについて話し合い、防止に努めている。虐待に関しても職員間で理解を深める取り組みを実施している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法の理解を深めるため、施設内勉強会、ミーティングの中で日頃のケアを見直している。言葉づかいについてもお互いが意識できるように確認している。勉強会では、グループディスカッションなども取り入れて、自らのケアを見直す機会になっている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護についての勉強会なども行っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前、入居の際、その後と重要事項説明書、契約書については、時間をかけてご家族へ説明している。特に、利用料金や起こりうるリスクなどについて、重度化された場合について、看取りについてなど施設の方針を説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族には請求書と一緒に添える手紙や昨年からのコロナ感染対策として面会を制限しているため、写真などを同封している。受診結果についてもその都度連絡しご家族の意向なども聴いている。アンケートについては行っていない。	家族が面会を希望する場合は事前にホームへ連絡してもらい、平戸市内在住の家族は10分程の時間を対面にて実施している。県外在住の家族には窓越しでの面会方法をとっている。面会時や病院受診後の電話報告時に家族へ要望等を聞き取り、その内容を申し送りノートや介護記録に残している。家族とのやり取りは赤枠で囲み、職員間で見落としなく情報共有ができるよう工夫している。	重要事項説明書において第三者(外部)評価の受審状況が分かるよう、第三者(外部)評価実施日、評価機関名、評価結果の開示状況を記載すると共に、外部評価の受審時には家族に対しアンケート調査があり客観的に家族意見等を汲み取る機会となる旨を伝えることを期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営職員会議を月2回、代表取締役が参加しての会議を月1回行っている。運営に関しての意見より修理のことや環境整備についての意見が多い。人員確保が難しい状態で、ギリギリの状態で行っている状況。	職員会議を通じて、ホームの運営等、職員が意見を述べる機会がある。また、月1回は代表取締役が出席し環境整備や給与面等の議題について話し合っている。昨年現在まで職員の離職傾向が続いており、空床があっても新しく入居者を受け入れることができず、施設長をはじめ職員の不安感が募っている。	代表取締役が就任してから職員との個人面談は実施していない。個別の面談でないと出てこない職員意見の把握や、人柄、責任感、義務感を確認し、ともに振り返る機会を持つことを期待したい。離職傾向にある現状の原因究明と職場環境の改善に向け入居者や家族、職員の不安感を解消できるよう取り組むことを期待する。また、介護現場でのハラスメント対策の強化が求められており、より円滑な職員の意見の反映に繋げる為にも、今後、ホームのハラスメントに関する方針等の明確化とその周知・啓発、相談(苦情を含む)対応窓口、研修実施等、具体的な体制を整備することが望まれる。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者が、現在のギリギリの状況で業務を行っていることを把握していただけるよう話し合いの場を設けてはいるが、何も進んではない。給与規定なども見直しをと話があつたが、何も変更はない。また、キャリアパスについても、それぞれの職員の資格で分けられ、職員の持っている力を勘案したものとは言えないと思われる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、管理者・職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握しているとは言い難い。今後、リーダーになりうる職員や段階に応じた研修会に参加していただいている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ感染の影響で行えていない。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の事前面談で生活状況、現在の困っていることなどを把握できるように努め、ご本人様の意向や不安を理解できるように心掛けている。入居後も安心して生活していただけるように傾聴している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談に来られたご本人様、ご家族に当事業所の利用についての情報提供前に、利用者様、ご家族が求められていることを理解し、情報提供を行うようにしている。時に、ご家族の意向を聴き他の施設を情報提供したこともある。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様やご家族の方がその時に求めておられる状況を理解し、早急な対応が必要な場合は、可能な限り柔軟に対応し、他の事業所のサービスにつなげることもある。話を聴いている中で、今必要なことは、医療機関での対応と判断し、受診されたケースもある。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ともに支えあえる関係づくりに留意している。利用者様のできることは、本人様ができるように促し、本人様から教えていただくようなこともある。雑巾を縫っていただいたり、料理の下ごしらえを手伝ってくださっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人様をともに支えあっているとご家族も思っただけのよう、状況の変化があればもちろん連絡を入れている。病院受診された場合、状況を伝え報告や相談をしている。面会を制限しながら行っているが、ご家族に会いたいとの思いを訴えられる利用者様には、ご家族から連絡を入れていただけるよう事前に打ち合わせを行ったり、家に帰りたいという思いについてもご家族と話し合いを持っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの理容室の方に来ていただき、カットしていただいている。コロナの影響でまだ以前のように地域との交流も持ておらず、交流の機会も減っている。受診についても、3月中旬頃からご家族にも協力していただき付き添っていただくことを再開した。	コロナ禍の中、馴染みの人や場との関係は以前のようにできていないが、本人の希望により自宅周辺をドライブしたり、カトリック信仰者を教会に連れて行く等、できることを支援している。施設長は、今後、感染状況を考慮しながら以前のように地域の馴染みの方の訪問や、入居者が会いたいと希望する方との関わりができる支援を徐々に再開する方針である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係が上手くいくように職員が調整役として状況を見ながら支援している。トラブルになりそうなときは、さりげなく関わり調整している。また、職員間で情報を共有し連携して取り組めるようにしている。また、その日によっても心身の状態や気分、感情で変化されることがあるため注意深く見守り支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了された利用者様のご家族からの相談を受けることがある。事業所が提供できることは、引き続きサービスが提供されるよう連携を心掛けている。退居後に入所された施設から食事摂取がうまくいかないと相談を受けたことがあり、うまくいった内容について情報提供を行ったことがある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思い、暮らし方の希望、意向などの把握に努めている。また、利用者様から意向を把握することが困難な場合は、ご家族の方から情報を得て、意向に沿えるよう努めている。	職員は自分の意思を伝えられる入居者にはできる限り希望に沿えるよう支援し、意思の表出が困難な入居者には日頃の生活の中で発した言葉や表情を読み取って意向を把握している。把握した本人の意向や希望によっては介護計画に反映している。また、家族には介護保険更新時や面会時を通じて意向の聞き取りを行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方の希望、意向などの把握に努めている。また、利用者様から意向を把握することが困難な場合は、ご家族の方から情報を得て、意向に沿えるよう努めている。ご家族からの情報は記録に残し共有できるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝の申し送りで、前日からの本人様の状態を職員全員で確認し、できること、わかる力を意識し、全体像を把握できるように努めている。また、職員同士情報を共有できるように申し送りノートを使用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人様やご家族の方の思いや意向を日頃の関わりの中で聴き、その情報をケアに反映できるようにしている。担当制を取り入れアセスメント、担当者会議(カンファレンス)、モニタリングを計画的に行うことができるように取り組んでいる。ご家族にも意向は尋ねている。	職員は入居者の日頃の会話や生活上で把握した情報、家族からの要望等を記録に残し、計画作成担当者が介護計画の原案を作成している。原案をもとに担当者会議に諮り、職員の意見を聴取して作成している。現在、職員がモニタリングやアセスメント等の能力を身に付け、全職員が関わりを持って計画作成に取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にファイルを用意し、食事摂取量・排せつ・バイタルなど、身体的状況及び日々の暮らしの様子や利用者様の言葉、エピソードなどを記録している。ケアを行っている中での気づき、検討課題などもその都度話し合っており変更している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様や、ご家族の状況や意向に応じて柔軟に対応し、満足していただけるよう努めている。前年度は、コロナ感染の影響で外出・外泊も難しい状況だったが、必要に応じてご家族と話し合い対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今年度はコロナ感染の影響で連絡会などへの参加もできておらず情報交換ができていない。3.21		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診時、ご家族の方の付き添いをコロナ感染の影響で制限していたが、3月から再開し協力いただいている。	コロナ禍で病院受診には主に職員が同行している。感染状況の緩和により家族の同行を少しずつ進めているところである。協力医は入居者の在宅時からのかかりつけ医でもあり、皮膚科以外は市民病院を受診している。他科への受診等、家族の同行や協力を得て受診支援を実施している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	2名の看護師が事業所に勤務しており、常に利用者様の健康管理や状態の変化に応じた支援を行えるようにしている。同法人の隣接している事業所にも2名の看護師が勤務しており何かあったら相談できるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は、本人様の支援方法などに関する情報を医療機関に情報提供し、スムーズに対応できるようにしている。ご家族とも状況について情報交換しながら退院支援を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居相談時から将来的に重度化された場合のことに本人様、ご家族の方の意向を伺っている。また、事業所が提供できるケアについても説明している。状態が変化し要介護3以上となられた場合は、今後のことについて話し合いを行っている。医療機関への入退院を繰り返される場合も、ご家族と話し合いを行っている。	重度化した場合は家族の意向を確認し、要介護認定結果が要介護3となった場合を目途に家族へ介護老人保健施設等への移設について説明している。頻回の救急搬送や定期的な医療措置が必要となった場合は病院や対応が可能な施設へ移設する支援を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎年1回応急手当の施設内勉強会で消防署の協力を得て開催している。夜間帯の緊急時の対応はマニュアルを整備している。申し送りのあとは、緊急時の役割分担の確認をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	合同避難訓練は今年度まだ実施されていない。また、自然災害に関する訓練も実施できていない。	ホームは朝礼時に早出が初期消火、、日勤が避難誘導、遅出が通報と役割を決め、その日の申し送り時に役割分担を確認している。今年度の消防署立会いや年2回の避難訓練、自然災害想定避難訓練は未実施である。翔里、翔里第二合同訓練を今年度中に実施予定であり、消防署に報告している。	訪問調査時において避難訓練が未実施であり、施設長は3月24日以降に実施することであった。今後、避難訓練を実施するとともに消火器訓練未実施の職員もいた為、該当者には消火器操作訓練を実施できるよう取り組むことが望まれる。また、自然災害に対する避難訓練の実施や業務継続計画(BCP)の作成に向けて今後具体的に取り組むことを期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員が利用者様に向けて発している言葉の内容や語調などが、利用者様を傷つけたり、プライバシーを損ねていないかなど権利擁護推進委員会を中心に会議や日々の申し送りなどでも検討している。	入居者への尊重やプライバシーの確保について、権利擁護委員会が担当し、資料を作成して勉強会を行っている。居室への入室時にはノックと入室許可を入居者からもらい、不在時には居室の入室を本人に了承を得たり、場合によっては入居者と一緒に入室する等、その方を尊重しプライバシーの確保に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様が自分で決めることができる機会を設けている(例えば、飲み物の選択・食べたいメニュー・やりたいこと・行きたいところなど)。自己決定が難しい利用者様でも表情などで見極めたり、ご家族に相談し本人様が決定できるように話をすることもある。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の決まりや都合を優先にすることがないよう、一人ひとりができることややりたいことなどを把握し希望に沿って支援できるよう心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の着替え、入浴時の着替えなど本人様の意思で決めてもらえるように促し、職員は自力で困難な利用者様には支援を行うようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日の献立は利用者様にも意見を聴きながら決めるようにしている。季節の食材を利用し、施設で収穫した野菜を使用し食事を提供している。イベントの際は、お弁当などを提供し、誕生会の献立は、本人様の嗜好なども尋ねて提供している。食事を楽しんでいただけるように工夫している。食事の準備についても、利用差様それぞれができる力に応じて野菜の皮むき、ごぼう削ぎなど行っていただいている。	献立については1週間分を作成し、早出が買い物に行き、朝食は夜勤者、昼食は遅出者、夕食は日勤者が調理を担当している。ホームの菜園に季節ごとの野菜を植え、芋などの野菜を入居者とともに収穫したり、野菜の皮むき等、旬の食材を使った食事やおやつを提供している。行事食は入居者の好みの食事を提供し、家庭的な食事を提供して食の楽しみに繋げている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの体調と摂取量を把握している。食事量についても、古語の状態に合わせて提供している。本人様の好きなものや食べやすい形状にして提供するようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者様の状態に合わせて食後の口腔ケアの支援を行っている。自分でできる方は、声掛け・見守りを行い、一人では困難な方は、付き添い、義歯洗浄、うがいすべてに支援が必要な方もおられる。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排せつの自立に力を入れている。入居者の排せつパターンを把握するため、排せつチェック表を使用している。一人ひとりの行動パターンを把握し、立ち上がられたらトイレの声掛けを行い、スムーズに誘導ができていられる。全利用者様がトイレにて排泄することができている。トイレで気持ちよく排泄していただけるようにリハビリパンツ、尿取りパットも利用者様の状態に合わせて支援している。	職員は各入居者の排泄間隔を把握して行動を観察し、声かけ、誘導を行っている。その為、失禁が少なく、また、リハビリパンツから布パンツに変更するなど、全職員が排泄支援に高い意識を持っている。排泄の自立支援に力を入れており、夜間の排泄でもポータブルトイレを使用する入居者はおらず、トイレでの排泄ができるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄パターンを記録し、便秘の方には十分な水分補給を行っている。(牛乳などを飲んでいただくこともある)また、職員間で情報共有しながら、受診時、主治医へ情報提供し、相談することもある。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は、1日おきには入浴していただくように計画しているが、高齢で体力が気になる方は、週2回程度だったり、本人様が希望されるときには、体調を確認したうえで入浴していただいている。また、仲の良い方と一緒に入浴を楽しんでいただいたり、臨機応変に対応している。入浴の拒否が続く方については、ご家族に相談したり、職員間で検討し声掛けのタイミングやトイレ誘導後、スムーズに入浴していただけるよう工夫している。	入居者が1日おきに入浴ができるよう支援している。入浴拒否や体調不良の場合は代替日を設け、入居者が入浴したい日に入れるよう準備している。浴槽への跨ぎが困難な入居者にはシャワー浴で済ませることなく、職員2人介助で入居者が浴槽でゆっくりと入浴し爽快感を味わえるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく日中の活動を促し、生活リズムを整えることができるよう努めている。年齢や本人様の状態・体調によっては、午前、午後と横になっていただく時間を設けている方もいる。夜間帯眠れない利用者様については、食堂にて一緒にお茶を飲んでいただいたり、話を聴いたりして利用者様の思いに寄り添うように心掛けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用差様の服薬一覧表は、カーデックスにファイルし、職員が内容などを直ぐに確認できるようにしている。本人様の状態に変化がみられるときには、通常よりも詳細な記録を残すようにし、看護職員や協力医療機関との連携が図れるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意分野で一人ひとりの力を発揮してもらえるように、掃除、洗濯ものたたみ、食材の皮むき、雑巾縫い、ゴミ箱折、新聞折などを行っていただき感謝の言葉を伝えるようにしている。また、読書、塗り絵などを行っている方にも声掛けしている。また、紙芝居を利用者が利用者様に読み聞かせしていただくこともある。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	今年度は、日常的な外出の支援はコロナ感染の影響で、できていなかったが3月からは徐々に確認をしながら、外出支援を行っていく予定。	コロナ禍により外出支援は以前のように実施できていないが、ホーム前の敷地で日光浴したり、菜園で野菜を職員とともに収穫したり、できる範囲で入居者が外気に触れることができるよう支援している。コロナ感染状況を見極めながら花見や平戸茶市等の外出支援を計画している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	少額だが自分で管理することで本人様の安心につながるのであればご家族にも相談し、所持金を持参されている方もおられる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を掛けたり、手紙を出したりなど利用者様の希望に応じて日常的に支援している。特に、このコロナ禍で面会ができなかった分、電話で話していただく機会も多くなった。その方の唯一の楽しみが携帯電話で知り合いの方とコミュニケーションを取ることだったため、携帯電話を持参しておられる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせてフローアに花、展示物、作品など置いている。玄関先にも、元職員だった方が、定期的にその季節の花を鉢植えして置いていただいている。	入居者が職員と一緒に作成した壁絵や入居者のホームでの様子を撮った写真を廊下の壁に貼り、ホームの雰囲気づくりに努めている。毎朝、職員がホーム全体の掃除機かけや、EM菌を使用して拭き掃除を行っており、ホーム内は悪臭がしない清潔な環境づくりができています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳のスペースでゆっくりとくつろいでおられることもある。寝ころびながらお話しされたり、読書されたりそれぞれの時間をたのしんでおられる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前の面談時、本人様の馴染みのものを持参されるようにお話しするが、新しいものを持参されたりする。	居室には入居者や家族の思いが込められた物や本人の在宅時からの馴染みの布団類、新しい寝具等が持ち込まれている。入居者の中には趣味の写経に集中できるようホームのワゴンを机代わりとして使用したり、化粧道具、ラジオ等を持ち込む方もおり、以前からの生活をできる限り継続できるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	開設当初は脱衣場、浴室の手すりが十分でなかったが、職員で検討し設置できた。居室の表札については、表札だけでは不十分な方には、目印となるようなものを入口に設置して様子をみている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4290700097		
法人名	株式会社翔里		
事業所名	翔里第二グループ		
所在地	長崎県平戸市津吉町1051		
自己評価作成日	令和5年3月10日	評価結果市町村受理日	令和 年 月 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1
訪問調査日	令和5年3月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

病院後の建物を改築し利用しているグループホームの為、スペースが広くのびのびと生活していただくことができる。また、敷地内には、広い畑があり、季節ごとに花を植えたり、野菜を育て、利用者様と一緒に収穫も楽しんでいる。収穫した野菜を使用し、毎日の食事に提供している。毎日鶏の掃除の際には、キッチン、食堂は毎食後の拭き掃除と、廊下、居室は、朝食後にモップにて床拭きを行っている。EM菌を使用した水で床拭きを行っている。そのせいか、においもなく、床もいつもきれいにしていると外部から見学された方やご家族に言っていた。ケアにおいても入居されるまでおむつを終日使用していた方が、入居後、布のショーツで生活することができるようになりご家族も大変喜んでおられた。入浴についても本人様の意向に添える場合は、毎日でも入浴できるように支援している。利用者様のできる力を活かして生活していただいている。また、利用者様の思いを聴き、そのことが実現できるように支援している。敷地内の散歩や、ドライブに出かけたりしてストレスケアに努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

ユニット名 B棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝の申し送りの後、運営理念の唱和、年間目標を唱和している。昨年より、スピーチロックについて(虐待について)、職員全員が意識できるように、自分たちで意識できる言葉を考えそれを唱和している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年度もコロナ感染予防の関係で近隣の保育園、小学校、中学校からの慰問・ボランティア活動などもすべて中止している。家族の面会に関してもまだ制限しながら行っている。地域で行われる茶市についても開催されなかった。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年度もコロナ感染予防の関係で近隣の保育園、小学校、中学校からの慰問・ボランティア活動などもすべて中止している。家族の面会に関してもまだ制限しながら行っている。地域で行われる茶市についても開催されなかった。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度は、運営推進会議を何度か施設内で開催したが、現在従業員の不足などの話が多い。		
5	(4)	○市町村との連携 令和5年3月 23日	市役所の介護保険班の担当者の方とは、職場の内情等についても相談させていただくこともあり最善の策などについても相談させていただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3か月に1回委員会を開催し、各ユニットの現状報告、全職員が身体拘束についての意識できているか、検討課題などについて話し合っている。内容については、運営推進会議でも報告し、意見をいただくこともある。身体拘束についての勉強会を年2回開催。内容については、各ユニットで意見をだし、内容を決定し勉強会を行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法の理解を深めるため、施設内勉強会、ミーティングの中で日頃のケアを見直している。言葉づかいについてもお互いが意識できるように確認している。勉強会では、グループディスカッションなども取り入れて、自らのケアを見直す機会になっている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護についての勉強会なども行っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前、入居の際、その後と重要事項説明書、契約書については、時間をかけてご家族へ説明している。特に、利用料金や起こりうるリスクなどについて、重度化された場合について、看取りについてなど施設の方針を説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族には請求書と一緒に添える手紙や昨年からのコロナ感染対策として面会を制限しているため、写真などを同封している。受診結果についてもその都度連絡しご家族の意向なども聴いている。アンケートについては行っていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営職員会議を月2回、代表取締役が参加しての会議を月1回行っている。運営に関しての意見より修理のことや環境整備についての意見が多い。人員確保が難しい状態で、ギリギリの状態で行っている状況。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者が、現在のギリギリの状況で業務を行っていることを把握していただけるよう話し合いの場を設けてはいるが、何も進んではない。給与規定なども見直しをと話があつたが、何も変更はない。また、キャリアパスについても、それぞれの職員の資格で分けられ、職員の持っている力を勘案したものとは言えないと思われる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、管理者・職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握しているとは言い難い。今後、リーダーになりうる職員や段階に応じた研修会に参加していただいている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ感染の影響で行えていない。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の事前面談で生活状況、現在の困っていることなどを把握できるように努め、ご本人様の意向や不安を理解できるように心掛けている。入居後も安心して生活していただけるように傾聴している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談に来られたご本人様、ご家族に当事業所の利用についての情報提供前に、利用者様、ご家族が求められていることを理解し、情報提供を行うようにしている。時に、ご家族の意向を聴き他の施設を情報提供したこともある。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様やご家族の方がその時に求めておられる状況を理解し、早急な対応が必要な場合は、可能な限り柔軟に対応し、他の事業所のサービスにつなげることもある。話を聴いている中で、今必要なことは、医療機関での対応と判断し、受診されたケースもある。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ともに支えあえる関係づくりに留意している。利用者様のできることは、本人様ができるように促し、本人様から教えていただくようなこともある。雑巾を縫っていただいたり、料理の下ごしらえを手伝ってくださっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人様をともに支えあっているとご家族も思っていたり、状況の変化があればもちろん連絡を入れている。病院受診された場合、状況を伝え報告や相談をしている。面会を制限しながら行っているが、ご家族に会いたいとの思いを訴えられる利用者様には、ご家族から連絡を入れていただけるよう事前に打ち合わせを行ったり、家に帰りたいという思いについてもご家族と話し合いを持っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの理容室の方に来ていただき、カットしていただいている。コロナの影響でまだ以前のように地域との交流も持たせておらず、交流の機会も減っている。受診についても、3月中旬頃からご家族にも協力していただき付き添っていただくことを再開した。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係が上手くいくように職員が調整役として状況を見ながら支援している。トラブルになりそうなときは、さりげなく関わり調整している。また、職員間で情報を共有し連携して取り組めるようにしている。また、その日によっても心身の状態や気分、感情で変化されることがあるため注意深く見守り支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了された利用者様のご家族からの相談を受けることがある。事業所が提供できることは、引き続きサービスが提供されるよう連携を心掛けている。退居後に入所された施設から食事摂取がうまくいかないと相談を受けたことがあり、うまくいった内容について情報提供を行ったことがある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思い、暮らし方の希望、意向などの把握に努めている。また、利用者様から意向を把握することが困難な場合は、ご家族の方から情報を得て、意向に沿えるよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方の希望、意向などの把握に努めている。また、利用者様から意向を把握することが困難な場合は、ご家族の方から情報を得て、意向に沿えるよう努めている。ご家族からの情報は記録に残し共有できるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝の申し送りや、前日からの本人様の状態を職員全員で確認し、できること、わかる力を意識し、全体像を把握できるように努めている。また、職員同士情報を共有できるように申し送りノートを使用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人様やご家族の方の思いや意向を日頃の関わりの中で聴き、その情報をケアに反映できるようにしている。担当制を取り入れアセスメント、担当者会議(カンファレンス)、モニタリングを計画的に行うことができるように取り組んでいる。ご家族にも意向は尋ねている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にファイルを用意し、食事摂取量・排せつ・バイタルなど、身体的状況及び日々の暮らしの様子や利用者様の言葉、エピソードなどを記録している。ケアを行っている中での気づき、検討課題などもその都度話し合って変更している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様や、ご家族の状況や意向に応じて柔軟に対応し、満足していただけるよう努めている。前年度は、コロナ感染の影響で外出・外泊も難しい状況だったが、必要に応じてご家族と話し合い対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今年度はコロナ感染の影響で連絡会などへの参加もできておらず情報交換ができていない。3.21		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診時、ご家族の方の付き添いをコロナ感染の影響で制限していたが、3月から再開し協力いただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	2名の看護師が事業所に勤務しており、常に利用者様の健康管理や状態の変化に応じた支援を行えるようにしている。同法人の隣接している事業所にも2名の看護師が勤務しており何かあったら相談できるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は、本人様の支援方法などに関する情報を医療機関に情報提供し、スムーズに対応できるようにしている。ご家族とも状況について情報交換しながら退院支援を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居相談時から将来的に重度化された場合のことについて本人様、ご家族の方の意向を伺っている。また、事業所が提供できるケアについても説明している。状態が変化し要介護3以上となられた場合は、今後のことについて話し合いを行っている。医療機関への入退院を繰り返される場合も、ご家族と話し合いを行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎年1回応急手当の施設内勉強会で消防署の協力を得て開催している。夜間帯の緊急時の対応はマニュアルを整備している。申し送りのあとは、緊急時の役割分担の確認をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	合同避難訓練は今年度まだ実施されていない。また、自然災害に関する訓練も実施できていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員が利用者様に向けて発している言葉の内容や語調などが、利用者様を傷つけたり、プライバシーを損ねていないかなど権利擁護推進委員会を中心に会議や日々の申し送りなどでも検討している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様が自分で決めることができる機会を設けている(例えば、飲み物の選択・食べたいメニュー・やりたいこと・行きたいところなど)。自己決定が難しい利用者様でも表情などで見極めたり、ご家族に相談し本人様が決定できるように話をすることもある。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の決まりや都合を優先にすることがないよう、一人ひとりができることややりたいことなどを把握し希望に沿って支援できるよう心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の着替え、入浴時の着替えなど本人様の意思で決めてもらえるように促し、職員は自力で困難な利用者様には支援を行うようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日の献立は利用者様にも意見を聴きながら決めるようにしている。季節の食材を利用し、施設で収穫した野菜を使用し食事を提供している。イベントの際は、お弁当などを提供し、誕生会の献立は、本人様の嗜好なども尋ねて提供している。食事を楽しんでいただけるように工夫している。食事の準備についても、利用差様それぞれができる力に応じて野菜の皮むき、ごぼう削ぎなど行っていただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの体調と摂取量を把握している。食事量についても、古語の状態に合わせて提供している。本人様の好きなものや食べやすい形状にして提供するようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者様の状態に合わせて食後の口腔ケアの支援を行っている。自分でできる方は、声掛け・見守りを行い、一人では困難な方は、付き添い、義歯洗浄、うがいすべてに支援が必要な方もおられる。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排せつの自立に力を入れている。入居者の排せつパターンを把握するため、排せつチェック表を使用している。一人ひとりの行動パターンを把握し、立ち上がられたらトイレの声掛けを行い、スムーズに誘導ができています。全利用者様がトイレにて排泄することができています。トイレで気持ちよく排泄していただけるようにリハビリパンツ、尿取りパットも利用者様の状態に合わせて支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便パターンを記録し、便秘の方には十分な水分補給を行っている。(牛乳などを飲んでいただくこともある)また、職員間で情報共有しながら、受診時、主治医へ情報提供し、相談することもある。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は、1日おきには入浴していただくように計画しているが、高齢で体力が気になる方は、週2回程度だったり、本人様が希望されるときには、体調を確認したうえで入浴していただいている。また、仲の良い方と一緒に入浴を楽しんでいただいたり、臨機応変に対応している。入浴の拒否が続く方については、ご家族に相談したり、職員間で検討し声掛けのタイミングやトイレ誘導後、スムーズに入浴していただけるよう工夫している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく日中の活動を促し、生活リズムを整えることができるよう努めている。年齢や本人様の状態・体調によっては、午前、午後と横になっていただく時間を設けている方もいる。夜間常眠れない利用者様については、食堂にて一緒にお茶を飲んでいただいたり、話を聴いたりして利用者様の思いに寄り添うように心掛けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用差様の服薬一覧表は、カーデックスにファイルし、職員が内容などを直ぐに確認できるようにしている。本人様の状態に変化がみられるときには、通常よりも詳細な記録を残すようにし、看護職員や協力医療機関との連携が図れるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意分野で一人ひとりの力を発揮してもらえるように、掃除、洗濯ものたたみ、食材の皮むき、雑巾縫い、ゴミ箱折、新聞折などを行っていただき感謝の言葉を伝えるようにしている。また、読書、塗り絵などを行っている方にも声掛けしている。また、紙芝居を利用者様が利用者様に読み聞かせしていただくこともある。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今年度は、日常的な外出の支援はコロナ感染の影響で、できていなかったが3月からは徐々に確認をしながら、外出支援を行っていく予定。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	少額だが自分で管理することで本人様の安心につながるのであればとご家族にも相談し、所持金を持参されている方もおられる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を掛けたり、手紙を出したりなど利用者様の希望に応じて日常的に支援している。特に、このコロナ禍で面会ができなかった分、電話で話していただく機会も多くなった。その方の唯一の楽しみが携帯電話で知り合いの方とコミュニケーションを取ることだったため、携帯電話を持参しておられる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせてフロアに花、展示物、作品など置いている。玄関先にも、元職員だった方が、定期的にその季節の花を鉢植えして置いている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳のスペースでゆっくりとくつろいでおられることもある。寝ころびながらお話しされたり、読書されたりそれぞれの時間をたのしんでおられる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前の面談時、本人様の馴染みのものを持参されるようにお話しするが、新しいものを持参されたりする。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	開設当初は脱衣場、浴室の手すりが十分でなかったが、職員で検討し設置できた。居室の表札については、表札だけでは不十分な方には、目印となるようなものを入口に設置して様子をみている。		